

新職分の 紹介

大島輝久



昭和五十四年 初舞台

平成十五年 「猩々乱」

披丰

平成二十二年 「道成寺」

披丰(十月)

今年より新職分とさせて頂きました。

18才で上京して以来16年が過ぎた訳ですが、その間厳しくも温かくご指導頂いた塩津先生、様々にお引き立てくださった職分の先生方、支えてくださった流友の皆様深く感謝申し上げます。

しかしどこか晴れやかな気持ちではないられないのが実情です。

それは日本社会全体が抱える問題でもありますが、このままでは能の未来も決して明るいものではないという危機感からでしょう。

今後職分になった我々は己の芸の向上は大前提ですが、いかに一般の方に能を見てもらう環境を作るかという事を考えなければなりません。

つまるところ宣伝活動が大事になるのだと思うのです。

これは能楽師が最も苦手にしてきた分野であり、私の祖父などは「宣伝上手に芸の上手はおらん」と豪語しておりましたが、今後はどうしても必要になってくる分野です。

こういった事は個人ではバランスを崩しがちですし限界もあるかと思えますので流儀全体で、それもただ流行を追うのでなく能が大切にしてきた精神性の高さを損なわない能独自の宣伝活動を模索していく必要があります。

喜多流発展の為、益々皆様のお知恵、お力添えを賜りたくよろしくお願い申し上げます。